

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 農村地域定住促進調査研究事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,500 千円 (前年度予算額： 2,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,200	950	0	0	0	0	0	0	1,250
要求額	2,500	1,250	0	0	0	0	0	0	1,250
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

中山間地域では、少子高齢化・人口減少が進行し、農業生産のみならず集落機能の維持が困難となることが懸念されており、それぞれの地域が抱える課題に即した人材の確保・定着が課題となっている。

一方で、「田園回帰」志向の高まりから、農村の持つ価値や魅力が再評価され、農業と他の仕事を組み合わせた働き方である「半農半X」等のライフスタイルが普及しており、すでに近隣県では「半農半X」に着眼した農村地域の活性化に向けた取組みに着手されている。

本県においても、中山間地域が求める人材の定住の促進に向け、関係機関が連携して関連施策を総合的に推進するため、各地域が抱える課題に対応した「半農半X」(岐阜県版「半農半X」)のあり方等を取りまとめ、希望者に対して具体的な指標を示す必要がある。

(2) 事業内容

○半農半X体感モデルツアーの実施 2,500千円

・半農半X希望者を対象に、県内各地の特徴的な実践者をめぐる体感ツアーを実施

(3) 県負担・補助率の考え方

県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費		
旅費		
需用費		
役務費		
委託料	2,500	半農半X体感ツアーの開催
使用料		
補助金		
その他		
合計	2,500	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

なし

(2) 国・他県の状況

近隣県（愛知県、三重県、長野県）で「半農半X」に着眼した農村の活性化に向けた取り組みを実施。

(3) 後年度の財政負担

本事業で実施する調査研究の結果を踏まえ、関係事業と連携し、継続的に実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県全域にわたる施策であるため、県が事業主体となることが適当。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ひとつの分野に特化していない分、支援体制も不十分であり、実態も把握できていない状態であった半農半X実践者の実態を把握するとともに、各分野ごと、市町村ごとの支援体制を整理し、農村における多様な担い手の一人として対応できる体制を整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①ぎふの田舎応援隊登録数	289人	1,177人	1,260人	1,380人	1,500人	78%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

各地域が抱える課題に対応した「半農半X」（岐阜県版「半農半X」）のあり方や具体的な推進方針等の調査研究を行うものであり、目標指標は本事業で検討。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和3年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の半農半X実践者の実態を把握するため、各市町村から紹介された対象者に対しヒアリング調査を実施。また、各市町村に対し、半農半Xに対する取組み状況や推進体制などについて調査をした。 ・部局横断的な関係課でつくる「半農半X検討会」を立ち上げ、セミナー等による勉強会を開催するとともに、今後の支援策等の検討を行った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 2	実態調査により、県内各地に半農半Xの実践者がおり、地域に貢献していることがわかった。
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	今まで実態が把握できていなかった県内の半農半Xの実態を把握することができた。
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価) 1	県内全域を対象とした専門性の高い調査を、民間のコンサルティング会社に業務委託して効率的に実施することができた。

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 県内の半農半Xの実態を把握することができたが、半農半X実践者の実態はまだ広く知られていないため、周知する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 半農半X実践者は農村地域の重要な担い手にとらえ、希望者に対し県内の情報を適格に提供していく必要があり継続すべき。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>清流の国ぎふ移住・交流センター、移住フェア 【地域振興課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>都市部の移住相談窓口において、半農半X的な生活を希望するものに情報を提供して移住を促進する</p>